○ 調　査　問　題

問題の学力のレベル
レベル 10-B

2

□の文章を読んで、次の問いに答えなさい。

（千葉省三『みち』による。）

(1) 右の文章中の①おれたちの　が修飾している言葉を、次の1～4の中から一つ選びなさい。

1　一番　　2　はじめに　　3　見つけた　　4　道だった

○ 調査問題の趣旨・内容

「修飾と被修飾の関係を理解する力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問題内容】　短い一文の中から修飾語に対応する被修飾語を選択する。

【作成の趣旨】　この問題は、文の大切な構成要素である修飾語とそれに係る被修飾語の役割を理解しているかをみる問題である。修飾語に対してそれを受ける被修飾語を適切に選別する力が求められる。

文の中の言葉と言葉の係り方を理解することによって、文章を書いたり話したりする上で、自分の伝えたいことを相手に分かりやすく伝えることにもつながる。

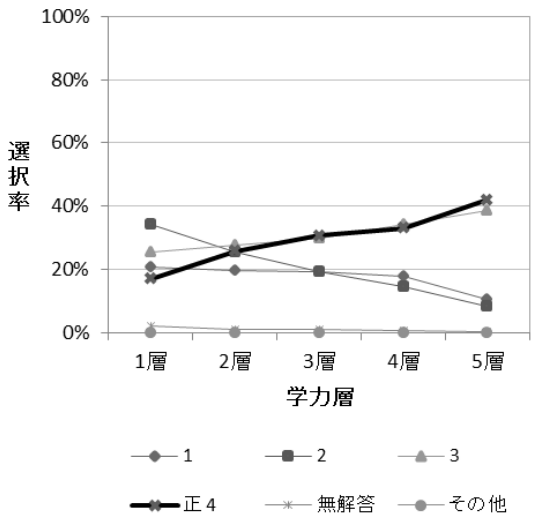
○ 誤　答　分　析

解答類型 / 出題のねらい	1	2	3	**④正答**	無解答	その他
修飾と被修飾の関係を理解する	17.2%	19.3%	31.8%	**30.7%**	0.9%	0.0%

正答率が低く、修飾語、被修飾語の理解に課題があると考えられる。誤答の中で選択肢３「見つけた」を選んでいるものが 31.8%と多い。選択肢１おれたちの「一番」や、選択肢２おれたちの「はじめに」はつながりがないことから誤答が少なかったことが考えられる。それに対し選択肢３おれたちの「見つけた」の係り受けでは、主語と述語の関係として文の係り方を捉えてしまったため、選択肢３の誤答が多かったことが考えられる。

問いの文の、「おれたちのが修飾している言葉」という文章から、修飾と被修飾の関係をとらえる問題であることを理解せず、主語と述語の関係とすり替わってしまったと思われる。このことから、常に文の中での主語や述語を捉えることや、修飾や被修飾という言葉を意識的に使い児童に意識させることが大切であると言える。

○ G － P 分 析



○　全体の正答率は 30%程度と決して高いとは言えない結果となった。能力レベルが上がるほど、正答率も緩やかに伸びてはいるが、誤答である選択肢３も正答である選択肢４とほぼ同じような割合になっている。

○　上位層の中にも定着の曖昧な児童が多く存在することが読みとれる。日頃の学習の中で、修飾語と被修飾語、また主語と述語の役割について意識して使用する機会がないことが大きな要因であると考えられるので、学習指導にさらなる改善を図り、全ての生徒への着実な理解と定着を目指すことが求められる。

○ 指導上の改善ポイント

主語と述語を基本として、「修飾語」を知り、その役割を理解することで文の意味を正しく捉える。また、言いたいことが、正確に相手に伝えられるよう文を整えて書いたり話したりすることを目標として指導する。

修飾と被修飾との関係など、文の成分について初歩的な理解をもつことの学習は、中学年で数時間程度の扱いだが、それ以降教科書の中で、修飾・被修飾に関する単元が登場することは少ない。日常生活の中で修飾・被修飾の関係を意識することは少なく、指導の機会が少ないのが現状である。文の成分の意味を理解させるだけでなく、「話すこと」、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の全ての領域で意識的に修飾語、被修飾語等の指導を行う必要がある。

修飾語の役割について理解させる指導

主語と述語からなる文に、修飾語を加えて文をくわしくすることで、修飾語の働きに気づかせる。

わたしは　妹に　ノートを　あげた。　　子どもが　遊ぶ。

主語　　だれに　　何を　　述語

「楽しそうに」などを加えると、子どもの様子がわかる。

修飾語は文をくわしく説明するもの。
「いつ」「どこで」「だれに」「どんな」「どのように」などが修飾語である。

修飾語・被修飾語の関係を理解させる指導

①　一つの文節が、文の中でどのようなはたらきをもつか考える。

［例］小さな　鳥が　木に　たくさん　止まる。

主語　　述語

②　それぞれの修飾語が何を詳しくしているか、矢印で表す。

小さな ⟶ 鳥が
木に ⟶ 止まっていた
たくさん ⟶ 止まっていた

③　短い文に修飾語を付け足していく。

[例]子どもが遊ぶ。

どんな子ども？　かわいい子ども　小さな子ども

どこで？どのように？いつ？校庭で遊ぶ　元気に遊ぶ　夕方遊ぶ

【主語・述語・修飾語を使った短文作り】

①　写真を見て、主語・述語・修飾語がそろった文を個人で作る

②　作った文をグループで発表する

③　児童に対話的な学びを行わせるための工夫として、グループで１つ文を作る。

・青い空にこいのぼりが泳ぐ。
・たくさんのこいのぼりが黄色い菜の花の上でおよぐ。

④　クラス全体で、グループ毎に作った文の中から、主語・述語・修飾語を探す。

○　調　　査　　問　　題

問題の学力のレベル
レベル 9-A

10　森田さんは、国語の時間に、埼玉県について調べたことをまとめて発表する学習に取り組んでいます。次は、発表に向けてまとめた【メモ】と【発表原稿の下書き】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【メモ】

川越について
○「小江戸」川越
・古くから「小江戸」という愛称で親しまれる
・昔ながらの町並みを残していて、観光地としても人気
○ 川越のシンボル（１）「時の鐘」
・約三九〇年にわたって時を刻んできた
・火事で焼けて、何度も再建された
・市の指定文化財に指定されている
○ 川越のシンボル（２）「蔵造り」の町並み
・どっしりとした、黒い建物
・火事に強いという特徴
・一軒ごとに、窓の数や形が違う
○ 川越のいま
・一九九九年、「重要伝統的建造物群保存地区」に選定された

【発表原稿の下書き】

私は、家族で行ったことがある、川越について調べました。

川越は、古くから「小江戸」という愛称で親しまれる、伝統的な日本の風景を残した街です。① 歴史を感じられるため、近年は観光地としても人気です。私が行ったときも、日本人だけでなく、海外の人も来ていて、とてもにぎわっていました。

川越を代表する建物としては、「時の鐘」があります。この建物は、何度も再建されながら、約三九〇年ものあいだ、時を刻んでいます。そして、今は［　　］います。また、どっしりとした「蔵造り」の町並みも有名です。これは、明治二六年に起きた大火事をきっかけに作られるようになりました。② 一軒一軒の「蔵造り」の建物は、窓の数や形が違うという個性もあります。私も、ひとつひとつ少しずつ違いがあることが興味深くて、夢中になって見ていました。

川越は、一九九九年に、「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。「小江戸」川越は、歴史ある地域として、大切にされているのです。

今回調べてみて、川越という、自分が住む埼玉県の新たな魅力に気づくことができ、うれしく思いました。

(4)　発表をより分かりやすくするために、【発表原稿の下書き】の①・②のどちらかに次の文を加えようと思います。あなたならどちらの文を加えたいですか。次の【発表原稿に加える文】から、加える文を一つ選びなさい。（どちらの文を選んでもかまいません。）そして、その文を加えた理由を、あとの条件１から条件３に従って具体的に書きなさい。

【発表原稿に加える文】

①	に加える文　：「小江戸」と呼ばれていることなどによります。
②	に加える文　：「蔵造り」は火事に強いという特徴を持つ、建築様式です。

条件１　二段落構成で、五行以上、八行以内で書くこと。
条件２　一段落目には、【発表原稿に加える文】のうち、どちらの文を加えるのがよいと思うかを書くこと。（選んだ文は番号を使って書くこと。）
条件３　二段落目には、加えたことによってどのような効果があるかを具体的に書くこと。

○　調査問題の趣旨・内容

「加筆したことにより生まれる効果を考えて明確に書く力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問 題 内 容】　発表原稿に加える一文を選び、その一文を加えた場合の効果を説明する。

【作成の趣旨】　この問題は、自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えて書く力をみる問題である。この問題のポイントは、異なる二文から、より加筆の効果があると思うものを選択し、その効果を書くことである。文章を書く際に、加筆により生まれる文章構成の効果を考える力、資料と自分の考えを照らし合わせながら書く力が求められる。

○　誤　　答　　分　　析

出題のねらい ＼ 解答類型	① 正答	2 二段落構成でない	3 行数等の条件不足	4 加筆の効果がない	無解答	その他
加筆したことにより生まれる効果を考えて明確に書くことができる	40.8%	5.4%	0.5%	19.8%	14.8%	18.7%

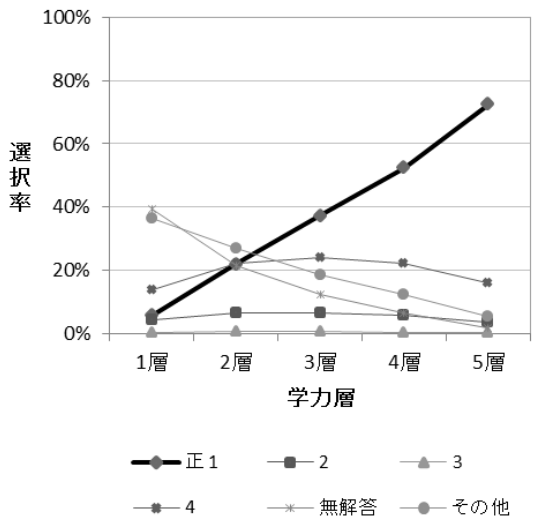
誤答で最も多かったのは、解答類型４の「加筆の効果が記述されていない」ものであった。これは、加筆したことにより生まれる効果を書かずに、単に選んだ理由を書いたためと考えられる。

（例）　（一段落目）　私は①を選びました。
　　（二段落目）　理由は、川越は古くから「小江戸」という愛称で親しまれていて、歴史ある地域として、大切にされている町だからです。

次に多かったのは、解答類型のその他であった。これは、設問の設定を理解していないためと考えられる。

事実に対して自分の考えを持たせることを日頃から意識して指導するとともに、書くことの「推敲に関する指導事項」についても意図的・計画的に指導してよりよい表現にする活動を充実させることが重要である。

○ G － P 分 析



○　本問題は、全体として無解答率が 14.8%と高く、学力層が下がるほどその割合も非常に高くなっている。唯一の記述式の問題でもあり、題意を捉えられず何をどのように書けばいいのかわからない生徒が多かったものと思われる。１～２層の生徒に、自分の考えを書く力を付けさせることが求められる。

○　解答類型４は、学力層３～５の生徒の誤答率も高い。このことから、全体的な傾向として、「発表をより分かりやすくするための加筆による効果」の意味を理解できていないことがわかる。日頃の書く活動により、推敲する力の定着が求められる。

○ 指導上の改善ポイント

1　自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考える指導

①　系統性と既習事項の確認

中学年の「文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること」、また中１の指導事項を把握。

②　説明的文章の構成と基本文型

「序論―本論―結論」「現状認識―問題提起―解決―結論―展望」等があることや、基本文型として「頭括型」「尾括型」「双括型」があり、それぞれの特徴をおさえる。

その上で

「読むこと」と「書くこと」をつなげた指導

○説明的文章を「読む」学習時に、左記の内容を意識して指導する。それを、意見文等を「書く」学習時に既習として想起させるというように、各領域で学習した内容を関連づけた指導が大切！

○序論(抽象)→本論(具体)→結論(抽象)という文章構造を理解して、一般化できる指導を！

「書く」学習で必要不可欠な活動

◎「ペア」「グループ」などで読み合う。

◎視点やポイントを押さえたアドバイスをし合う。

対話的な学びを通して深い学びへ導く！

2　加筆により生まれる効果を考えて書く（推敲）の指導

①　推敲についての指導事項の確認

「自分の考えを明確に表しているか」「相互関係が明確な構成か」「表現の曖昧さがないか」を確かめ、相手が読んで理解しやすいよう書き直していく。

②　「書いたら読み返す」ことを習慣化

日記･感想･スピーチ原稿等、国語の学習に限らず、他教科領域等でも「書く」活動があったら必ず「読み返す」そしてよりよいものにするために「書き直す」ことを習慣化させる。

その上で

「よりよい表現に･･･」推敲の指導

○語彙を増やす指導

・教科書巻末の言語事項に関するページ等を拡大掲示して活用

○視点を指導

・主述の対応、一文の長さ、事実と考えの区別

○方法を指導

○ 調　査　問　題

問題の学力のレベル
レベル 9-B

2　次の――線部の「空がきれいに晴れるのを」と「期待した」の関係として適切なものを、あとの1～4の中から一つ選びなさい。

ぼくは　空が　きれいに　晴れるのを　心から　期待した。

1　主語と述語の関係
2　接続の関係
3　独立の関係
4　修飾（しゅうしょく）と被修飾（ひしゅうしょく）の関係

○ 調査問題の趣旨・内容

「文節の関係を理解しているか」をみる問題

【問題内容】　連文節と一文節の関係を説明したものの中から、修飾、被修飾の関係を選択する。

【作成の趣旨】　この問題は、文節の関係を理解しているかをみる問題である。しかも、一文節ではなく、連文節と一文節の関係を答えさせる応用問題となっている。また、この問題文は、修飾部と被修飾語が離れているので、修飾・被修飾の関係を正しく理解していることが大切である。

○ 誤　答　分　析

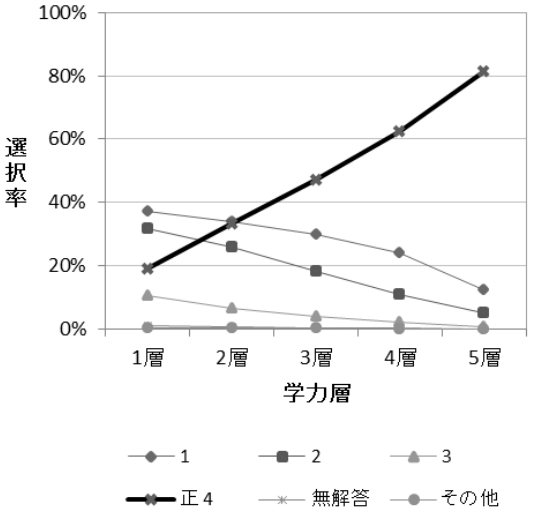
解答類型 ／ 出題のねらい	1	2	3	④正答	無解答	その他
文節の関係を理解することができる	26.9%	17.4%	4.4%	50.8%	0.4%	0.2%

正答率は50.8%と半数近くが正答している。無回答は0.4%と非常に少ない。

誤答は、１の「主語・述語の関係」が最も多く、26.9%である。「期待した」が述語であることから１を選んだと考えられる。「修飾・被修飾の関係」をよく理解していない、被修飾語が文の成分ではなく修飾語との関わりを表す言葉であることを正しく理解していない生徒がいると予想される。

「主語」「述語」「修飾語」「接続語」「独立語」それぞれの役割、修飾語がかかっていく被修飾語を明確にするとともに、連文節になったときに文の成分としてどの役割をしているのかを考えさせる必要がある。

○ G － P 分 析



○　正答率は、１層が 19.1%、２層が 33.2%、３層が 47.2%、４層が 62.4%、５層が 81.5%と層が上がるにつれて、正答率が上がっており、１層と５層では 60%以上の大きな差が見られる。

○　どの層でも、誤答は「１　主語･述語の関係」を選んだ生徒が多い。

○　無解答率はどの層でも１%を下回り、他の問題に比べて低くなっている。

○　誤答の結果から、どの層においても該当する部分は「述語」だから「主語・述語」の関係と判断していることがうかがえる。「なぜ、その文の成分となるのか」を考え、判断する学習をとおして文節の関係の理解を定着させたい。

○ 指導上の改善ポイント

小学校では２年生で「主語・述語」３年生で「修飾語」を学習している。また、中学校１年生で「文の成分」「修飾・被修飾」について学習している。

文の成分の定着、修飾・被修飾の関係を理解させる指導

①　文の成分について確認する。

例文　日本には、　港が　たくさん　ある。
　　修飾語　主語　修飾語　述語

ポイント　「ある」（述語）のは「何が」あるのか。
「港が」「ある。」ので「港が」が主語である。

②　修飾語を直接つなげて意味の通る文節が「被修飾語」になる。（すぐ下の文節とは限らない。）

×日本には　港が
×日本には　たくさん
○日本には　ある

ポイント　「ある」は分の成分では「述語」であるが、修飾語がかかっていく「被修飾語」になる。「被修飾語」は文の成分ではない。

連文節の役割・関係を理解させる指導

文をくわしくする　連文節を作る活動　【個人】または【グループ】で作って【全体】で発表する。

（例文）教室に　花が　ある。
　　修飾語　主語　述語　⇨　修飾部　主部　述部　にしてみよう。

例１　１組の教室に　バラの花が　飾ってある。
例２　誰もいない教室に　見たこともない花が　置いてある。
例３　薄暗い教室に　枯れた花が　捨ててある。

ポイント　誤答例　「たくさんある」
「たくさん」はどのくらいを表すので、修飾語になる。

文の成分を考える　どんな文の成分になっているか考える

（例文）僕と　和田くんは、近くの　公園で　遊んだ。
　　寒い　日が　続いたので、　桜の　開花が　遅れて　しまった。

①　文節ごとに分けた例文を、文の成分に分けてみる。（どの部分をまとめることができるのか）【個人】

僕と　和田くんは、近くの　公園で　遊んだ。
　　主部　修飾部　述語

ポイント　文の成分は、連文節中の最後の文節の働きと同じになる。

寒い　日が　続いたので、　桜の　開花が　遅れて　しまった。
　　接続部　主部　述部

②　文の成分を答えるだけでなく「なぜその文の成分になるのか」を【グループ】で話し合う。その後【全体】

③「主語・述語（主部・述部）の関係」「修飾・被修飾の関係」「並立の関係」「補助の関係」も考える。

○ 調　査　問　題

問題の学力のレベル
レベル 9-C

11

田中さんたちは、国語の時間に、自分たちの身近にある「電子化」されたものの例を調べ、発表をすることになりました。次は、【発表用のポスター】や、発表の準備の時の【会話の一部】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【発表用ポスター】

「紙の辞書」と「電子辞書」――「電子化」ってなに？

✦「電子化」とは
文書や画像などの情報を、デジタル・データに変換すること。

✦ 紙の辞書と電子辞書の比較

紙の辞書

電子化

電子辞書

［紙の辞書の特徴］
1．一度に目に入る情報が多いので、調べた情報についてより深く学んだり、調べた情報以外の事柄に触れたりできる。
2．ページをめくったり、つづりを確認しながら引いたりするので、記憶に残りやすい。
3．電子辞書よりたいてい大きくて重いので持ち運びが大変なうえ、保管するときも場所を取る。

［電子辞書の特徴］
1．調べたい情報をすぐに探すことができる。また、簡単に調べられるため積極的に使うようになって、辞書を引く習慣が付きやすい。
2．小さくて軽いので持ち運びがしやすく、保管するときも場所を取らない。
3．高価なうえ、機械なので落としたりしないように気を付けなければならない。

✦ クラスの人への聞き取り調査

質問：「紙の辞書と電子辞書、どちらを使っていますか？」

- 紙の辞書だけを使っている人は 19 人、電子辞書だけを使っている人は 7 人、紙の辞書と電子辞書の両方を使っている人は 14 人だった。

【会話の一部】

木村さん　電子辞書を使っている人は、私たちのクラスでもたくさんいるみたいだね。私も使っているけれど、荷物が多い日は特に、電子辞書を使っていてよかったなって思う。

石川さん　でも、どうなんだろう。電子辞書は持ち歩きやすいかもしれないけれど、それは本当に大事なことなのかな。勉強するのが目的なのだから、記憶に残りやすい紙の辞書の方がいいような気もする。それでもたくさんの人が使っているということは、やっぱり電子辞書の方が優れているのかな？

田中さん　アンケートの結果を見ると、クラスのみんなも、十四人は紙の辞書と電子辞書の両方を使っているみたいだし、状況に応じて使い分けているのかもしれないね。それぞれに良さがあるから、どちらが良いかって決めるのは、難しいんじゃないかな。

木村さん　なるほど、そうかもしれない。私も、調べるときは電子辞書、読書のときは紙の本、と使い分けているからなぁ。

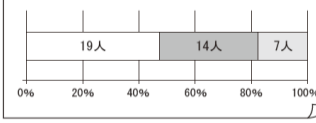
石川さん　そういえば、今は電子書籍がはやってきているよね。電車の中で、タブレット端末で電子新聞を読んでいる人も見かけるし、このあいだ家族で旅行に行ったときは、電子パンフレットを使ったよ。電子化は時代の流れで、これからどんどん広がっていきそう。

田中さん　あらゆるものが電子化されていくと、紙のものにはなかった良さが生まれそうだよね。でも、だからといって紙のものがなくなってしまうわけでもないような気もする。それぞれに良さがあるから、私たちはそれをちゃんと知らなきゃいけないね。そして、電子化されたものとの付き合い方を考えていきたいなぁ。

(2)　田中さんたちは、**【発表用ポスター】**の**「クラスの人への聞き取り調査」**の部分を、下のように変えることにしました。これにより生まれた効果について説明したものとして、**ふさわしくないもの**を、次の**1**～**4**の中から一つ選びなさい。

✦ クラスの人への聞き取り調査

質問「紙の辞書と電子辞書、どちらを使っていますか？」



1　文章で書かれた内容をグラフにまとめたことで、より多くの内容を盛り込めるようになった。
2　文章で書かれた内容をグラフにまとめたことで、聞き手の注意を引きつけやすくなった。
3　文章で書かれた内容をグラフにまとめたことで、聞き手がひと目で理解できるようになった。
4　文章で書かれた内容をグラフにまとめたことで、項目の比較がしやすくなった。

○ 調査問題の趣旨・内容

「集めた資料を整理する力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問 題 内 容】　グラフ化した効果を説明したものとしてふさわしくないものを選択する。

【作成の趣旨】　この問題は文章をグラフ化することによって、どんな効果が生まれるかを考える問題である。この問題のポイントは、まず、選択肢の文の内容を捉えることであり、どんな効果があると述べているのかを正しく読み取る力が求められる。さらに述べている内容が、効果の説明として「ふさわしい」ものかを判断する力が求められる。グラフ化や図表化の効果を理解するというねらいで、この問題を作成した。

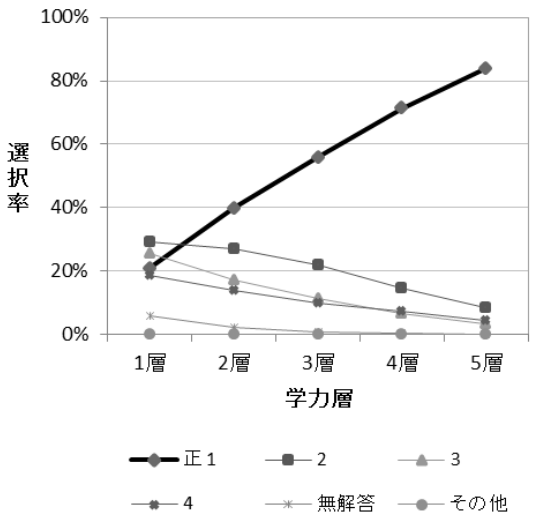
○ 誤　答　分　析

出題のねらい ＼ 解答類型	①正答	2	3	4	無解答	その他
グラフ化の効果を考察することができる。	56.8%	19.6%	11.8%	10.2%	1.6%	0.0%

○　誤答２、３、４を選択した生徒は、グラフの%の表記を、１の「より多くの内容を盛り込めるようになった」と捉えたと考えられる。そう考えた生徒は２、３、４の中から答えを選ぶことになる。%の表記は、３の「聞き手がひと目で理解できる」や４の「項目の比較がしやすくなる」につながるもので、新たな内容ではないことを理解させる必要がある。

○　誤答３、４を選んだ生徒は、質問の答えとして見た時に、文章を読むよりも、グラフの方が視覚的にひと目で比較しやすくなることが理解できていない。

○ G － P 分 析



○　正答率は４層で71%、５層で84%となっている。

○　１層では、１の正答よりも誤答２、３の方が多くなっている。「効果の説明としてふさわしくないものを選ぶ」をいう問題なので、誤答１を「効果の説明としてふさわしい」と考えている。

○　層が上がるに従って正答率が上がり、誤答率も段階的に下がっている。また層に関係なく誤答は２、３、４の順に多い。選択肢の言葉の意味を正しく理解することがどの層にも必要である。

○　文章以外のグラフや図表等の資料を活用する指導をとおして、資料の効果を実感させ、定着を図りたい。

○ 指導上の改善ポイント

構成を工夫し、聞き手に応じて話す指導

テーマを設定し、発表を目的としたレポートやポスターなどを作成することで、読み手や聞き手に分かりやすく魅力的な資料にするにはどうしたらいいか考えることができる。グループで資料を作成し、発表することによって主体的・協働的な学びの中で考えることができる。

１　収集した情報を整理し、キャッチコピーや図表などを効果的に用いて、わかりやすくまとめさせる。

キャッチコピーの工夫	表やグラフの工夫	割り付けの工夫
・一見して内容が分かるように。 ・説明を聞きたくなるような印象的なものに。	・数値はそのまま示さず表やグラフにして分かりやすく。 ・説明したい内容に合った表やグラフの種類を。	・内容の分量や順序。 ・文字の色や大きさ（見出しと本文）。 ・図表や写真などの位置。

２　話の構成を工夫し、聞き手の反応に注意しながら話をさせる。

・説明の項目や順番をまとめた発表メモを作る。
・図表を指し示すなどし、ポスターを活用する。
・聞き手の表情や反応を確かめながら話す。
・聞き手に質問するなどして、興味を引くように工夫する。

【指導事例】

「ポスターセッションをする。」

言葉について調べたことをポスターにまとめ、それをもとに説明や交流を行う発表会を行う。

1　調べるテーマを見つける。
2　調査して情報を集める。
3　集めた情報を整理し、ポスターを作る。
4　発表の準備・練習をする。
5　ポスターセッションをする。
6　発表を振り返って話し合う。
　　（分かりやすかった点・よかった点）

テーマ例　『身近な言葉』
・「おはよう」と「こんにちは」境界線はどこにある？
・身近なものの意外な数え方。
・「うれしさ」を表すさまざまな言葉。
・漢字、平仮名、片仮名から受ける印象の違い。
・地域の文化が感じられる方言。

○ 調　査　問　題

問題の学力のレベル
レベル 10-A

4

次の□の文の「ない」と違う使い方の「ない」を、あとの1～4の中から一つ選びなさい。

あのサッカーシューズは、なかなか手に入らない。

1　きみの言うことは、今ひとつはっきりしないなあ。
2　この駅には、急行列車は止まらない。
3　テレビのない生活を想像してみよう。
4　このところ雨が降らない日が続いている。

○ 調査問題の趣旨・内容

「助動詞と形容詞を識別できているか」をみる問題

【問 題 内 容】　文中の傍線部とは異なる使い方をするものを４つの中から１つ選択する。

【作成の趣旨】　この問題は助動詞と形容詞が識別できているかをみる問題である。紛らわしい語「ない」を識別する力が求められている。この問題のポイントは、「ない」を、①助動詞、②形容詞、③形式（補助）形容詞、④その他、に分類できるかである。

この問題の難度は10Aと高めであるが、識別するポイントを押さえることで、解ける可能性が大きく高まる。文章を正確に理解する上でも、身に付けて欲しい力である。

○ 誤　答　分　析

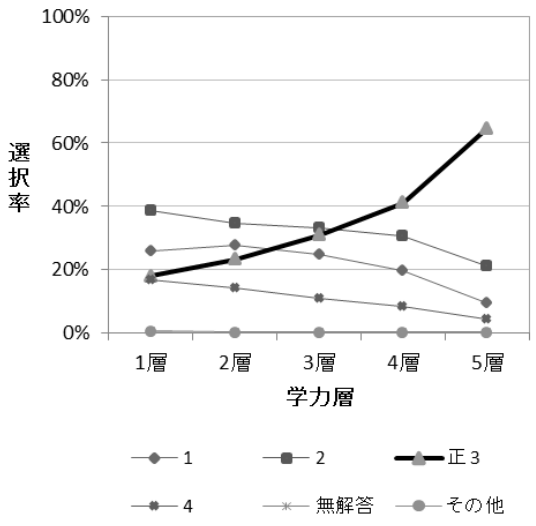
解答類型 / 出題のねらい	1	2	**③正答**	4	無解答	その他
助動詞と形容詞を識別することができる	21.4%	31.4%	**36.0%**	10.8%	0.3%	0.1%

正答率は36.0%であり、他の解答類型と比べると一番高い。しかし、解答類型１が21.4%、２が31.4%、４が10.8%と誤答にばらつきがある。この結果から、助動詞と形容詞を識別する理解や定着が低いと考えられる。具体的には以下の点である。

①形容詞「ない」の用法と活用のしかたの理解や定着が不十分
②助動詞「ない」の用法と活用のしかたの理解や定着が不十分
③紛らわしい語「ない」の識別が不十分

日頃の授業や定期テスト等で、ことばのきまりを継続的に指導していくことや、紛らわしい語の識別のポイントを明確にし、指導することが大切である。

○ G － P 分 析



○　正答できた生徒は、学力層が高くなるにつれ、多くなったが、５層でも、約60%にとどまり、誤答している生徒が少なくない。

○　５層以外の層では、解答類型のばらつきが大きく、中間層である生徒でも「助動詞と形容動詞についての理解が曖昧でることがうかがえる。

○　全体的に解答類型のばらつきが大きく、学力の高い生徒でも、間違える可能性が高い問題である。

○　どの層においても、助動詞と形容詞を識別する力の定着が不十分であると言える。ことばのきまりを継続的に指導していくことや、紛らわしい語の識別のポイントを明確にし、指導することが大切である。また、小学校からの積み重ねが大切な領域のため、小・中学校での系統的な指導が効果的であると考えられる。

○ 指導上の改善ポイント

紛らわしい語「ない」の識別

ことばのきまりは、小学校からの積み重ねの部分が多い。小中を見通した系統的な指導を図ることにより、より確実な理解や定着が図られる。

（1）助動詞の「ない」

（例）夕食のあとは何も食べない。

傍線の前が、「食べる」という動詞であり、未然形につくことが多い。「ぬ」に置き換えられる。

⇒夕食のあとは何も食べぬ。

（2）形容詞の「ない」

例）今、食べたいものは何もない。

傍線の前が「が」「に」「の」「も」などに続く場合は、形容詞の「ない」が多い。

（3）形式（補助）形容詞の「ない」

（例）このチョコレートはおいしくない。

傍線の前の言葉を補助する意味に用いられる。

傍線の前に「は」を補うことができる。

⇒このチョコレートはおいしくはない。

（4）その他

（例）最近のお菓子は甘みが少ない。

傍線は、形容詞「少ない」の一部である。

ここがポイント

（1）理解を図るための手立て

⇒傍線の前に着目する。

①動詞の場合は「助動詞」

②「が」「に」「の」「も」などは「形容詞」

③「は」を補うことができれば「形式（補助形容詞）」

（2）定着を図るための手立て

①帯時間で毎時間や毎週１回取り組む。

②文章で適切に理解するために、説明的文章でことばのきまりを取り上げる回数を増やす。

③定期テスト等で出題する。

ことばのきまりに着目した指導

○ことばの達人になろう。

①教科書教材等を用いて、ことばを探求する課題に、グループごとで取り組む。

（例）紛らわしい語「ない」を見つけるグループ
紛らわしい語「ある」を見つけるグループ
「連体詞」を見つけるグループ
「接続詞」を見つけるグループ　　等

②既習内容を整理したり、教科書等を参考にしたりして、見つけた言葉を説明できるようにする。（エキスパート活動）

③一人一人違うことばを探求したグループになり、ことばを説明する。説明の不足を補い違うことばから関係付けることができるか探求する。

④全体で発表する。（クロストーク）

※課題の設定次第で難易度を変えられる。

※全体の発表では、根拠を明らかにして「○○だから○○となる」と説明したい。

○ 調　査　問　題

問題の学力のレベル
レベル 10-C

13　次は、「さ入れ言葉」について、大川さんが書いた【発表スピーチの原稿】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【発表スピーチの原稿】

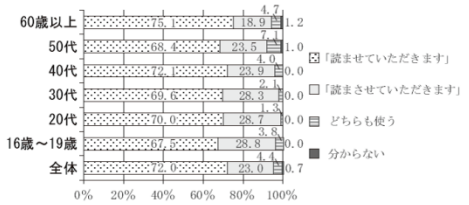
最近、先生に対して「**読ませてください**」という言葉を使っている人がいます。しかし、本来は「**読ませてください**」という「**さ**」を入れない言葉が正しいです。実際に、「読ませてください」という言葉を使う人はどのくらいいるのでしょうか。文化庁の「国語に関する世論調査」によると、「読ませてください」を使うと答えた人は全体の約七割である一方、全体の約二割が「読ませてください」を使うと答えました。

この「読ませてください」のように、本来「さ」が入らないところに「さ」が入っている言葉を「さ入れ言葉」といいます。それでは、なぜこのような「さ入れ言葉」ができたのでしょうか。それは、「～せていただく」と「～させていただく」という二つの言葉を、一つの言葉に統一しようとしたからです。

「せていただく」と「～させていただく」という言葉の意味は同じです。しかし、これらの言葉の前にくる動詞の種類によって、「～せていただく」を使う場合と、「～させていただく」を使う場合があります。表を見てください。「～せていただく」を後につけるのは、「読む」「書く」など、「～ない」の直前がａ（ア）の音になる動詞です。一方で、「～させていただく」をつけるのは、「いる」「やめる」など、「～ない」の直前がｉ（イ）・ｅ（エ）・ｏ（オ）の音になる動詞です。二つの言葉の意味は同じであるのに、このような使い分けをするのは面倒です。そこで、これら二つの言葉を統一させる「さ入れ言葉」ができたのです。

「さ入れ言葉」は言葉の使い分けを楽にするために生みました。文法上は誤りですが、日本語を使いやすくするための工夫といえます。私たちは、「さ入れ言葉」のような日本語の誤りを、ただ誤りだとみなすのではなく、その言葉ができた理由を考えてから、使うかどうかの判断をするべきなのではないでしょうか。

【グラフ】



文化庁・平成22年度「国語に関する世論調査」より

【表】

	「～ない」の直前の音	動詞の例	「～ない」をつけた形	「～(さ)せていただく」をつけた形
「～せていただく」が後ろにつく動詞	ａ（ア）	読む	読ま　ない yoma　nai	読ま　せていただく
「～させていただく」が後ろにつく動詞	ｉ（イ）	いる	い　ない i　nai	い　させていただく
	ｅ（エ）	やめる	やめ　ない yame　nai	やめ　させていただく
	ｏ（オ）	くる	こ　ない ko　nai	こ　させていただく

(2)　「さ入れ言葉」は言葉の使い分けを楽にするために生みました。　は、『さ入れ言葉』は」と「生みました」の関係が不適切です。この文の内容を変えないように、例にならって適切に書き直しなさい。

（例）

花が	き	れ	い	に	咲	い	た。

を	楽	に	す	る	た	め	に	生	み	ま	し	た。
「さ入れ言葉」は言葉の使い分け												

○ 調査問題の趣旨・内容

「一文を適切に書き直す力」が身に付いているかどうかを見る問題

【問 題 内 容】　主語・述語がねじれた一文を、（例）を参考にして適切に書き直す。

【作成の趣旨】　この問題は、「発表スピーチ原稿」を読み直し、主語・述語のねじれた一文を適切に書き直す問題である。主語と述語の関係については小学校から学習しているが、理解が定着しているかどうかを把握することをねらいとしてこの問題を作成した。

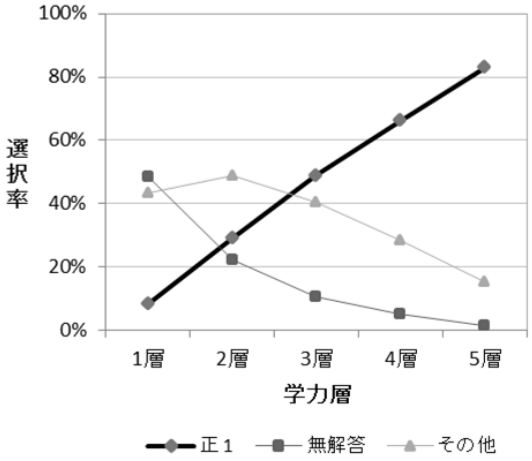
○ 誤　答　分　析

解答類型 ／ 出題のねらい	正答 「生みました」の「み」を、「まれ」と直しているもの	無解答	その他
一文を適切に書き直すことができる	**48.1%**	16.6%	35.3%

正答率は48.1%であり、問題の難易度からみるとやや低い結果であったといえる。誤答としては、「さ入れ言葉『は』」の「は」を「を」に直したものが14%、「が」に直したものが９%、「の」に直したものが９%あった。これは、（例）に誘引された誤答であるといえる。主述の関係に着目することなく書き直してしまったこと等が要因として考えられる。述語が「生みました」では対応する主語がなく、述語を書き直す必要があることに気付くことが解答のポイントである。

一文が長かったり、主語と述語が離れていたりすることによって、主語・述語の関係がしっかりと押さえられないことがある。この問題のように、「話すこと・聞くこと」の指導や「書くこと」の推敲の指導の場面で継続的に指導をすることで、定着を図ることが求められる。

○ G － P 分 析



○　この問題は、層が上がるにつれて正答率が高くなっている。１層の正答率が８％であるのに対して、５層の正答率は83%となっており、上位層の正答率は高い。

○　無回答は、１層で35%あるものの３層以上では10%以下となっている。

○　その他の回答は１層から４層まで30%前後となっている。

○　全体の正答率は、48.1%とおよそ半数にとどまった。特に１、２層の生徒についての定着が課題である。取り立て指導と合わせて「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導を通して定着を図ることが大切である。

○ 指導上の改善ポイント

主語・述語の照応については、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の指導事項として、取り立てて指導することが大切である。それとともに、この問題のように「話すこと・聞くこと」の指導において「スピーチ原稿を書く」活動や、「書くこと」の指導における「推敲」の活動を通して、意識的に指導することも大切である。前者が基本で後者が応用発展というような受け止めではなく、両方の指導をバランスよく指導計画に位置付け、継続的に指導をすることが求められる。

主語・述語の照応について取り立てての指導

オリジナル文法チャレンジ問題集を作ろう！

（問題作りを通して、定着を図ることを目的とする）

①例を示し、個人で問題を作る。

主語・述語の照応が誤っている短文を作る。

②作成した問題をグループ内で吟味する。

③他のグループに解いてもらう。

④作成者が問題を解いたグループに出題の意図を説明する。

⑤作成した問題は最後に一冊にまとめ、学級のオリジナル問題集として活用する。

児童生徒の主体的な学びを促進するような学習のゴールを設定する。

深い学びにするための工夫

対話的な学びにするための工夫

「書くこと」の指導を通しての指導

修学旅行記を作ろう！

（推敲の観点として意識させることにより、定着を図ることを目的とする）

①取材メモの中から、特に書きたい題材を選ぶ。

②情報を整理し、文書を作品にまとめる。

③推敲をする。

観点を示して、個人で推敲する。

グループ内で作品を読み合い、主述の照応について確認し合う。

④修学旅行記として一冊にまとめる。

対話的な学びにするための工夫